

発生してきた  
スズメノカタビラ 防除に！

芝用除草剤

**MIC<sup>®</sup>エンドタールK液剤**

種類名：エンドタール ニカリウム塩液剤

農林水産省登録 第23994号

- 1 効果の発現が早く、土壌中で速やかに分解します。
- 2 散布してから4～5日後にはオーバーシーディングができます。
- 3 コアリングの直後にも使用できます。

### 1 作用性

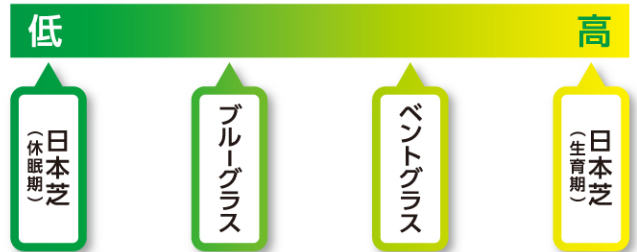
- 非ホルモン型の除草剤です。
- 茎葉部・茎葉基部に接触し吸収され、根部からは吸収されません。
- 細胞膜の脂質代謝、タンパク質合成等を阻害することにより水分の浸透移行機能を破壊し、植物体内の水分が不足することで枯死に至ります。

### 2 芝の種類と葉焼け症状

感受性の高い種類程、葉焼け症状が生じやすくなります。葉焼け症状は一過性のもので2～4週間で回復します。再度ご使用になるときは葉焼け症状が回復後、使用してください。

**以下の場合、散布を避けてください**

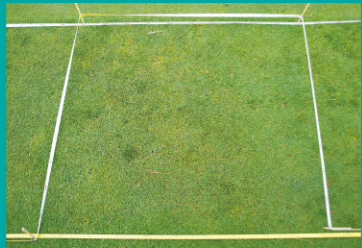
張芝直後、播種後6か月未満の芝、生育不良の芝、干害、異常低温、高温障害を受けた芝



### 葉焼け症状事例

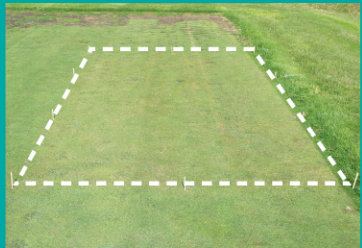
#### ベントグラス2mL/m<sup>2</sup> 処理3日後

【品種】ペンクロス 【処理日】2012年 5月 7日  
【水量】100mL/m<sup>2</sup> 【撮影日】2012年 5月10日



#### ベントグラス4mL/m<sup>2</sup> 処理7日後

【品種】L93 【処理日】2012年 5月 7日  
【水量】100mL/m<sup>2</sup> 【撮影日】2012年 5月14日



回復までの日数：14日

#### コウライシバ生育期12mL/m<sup>2</sup> 処理6日後

【処理日】2016年 4月22日 【水量】200mL/m<sup>2</sup>  
【撮影日】2016年 4月28日



回復までの日数：3ヶ月

### 3 上手な使い方

#### コウライシバ

- 大きいスズメノカタビラには高薬量でご使用ください。
- コウライシバの休眠期に使用してください。萌芽に影響はありません。
- 萌芽が始まってからの散布は葉焼け症状を起こしますので散布しないでください。

#### ブルーグラス

- 生育の旺盛な時に使用してください。
- 生育の悪い時や刈高が低い時は葉焼け症状が強くなるので、注意してください。
- スズメノカタビラを少しずつ減らすためには低薬量を繰り返し使用してください。
- 気温が低い時は薬害の回復が遅れる可能性があります。

#### ベントグラス

- スズメノカタビラを少しずつ減らすために繰り返し散布する使い方です。
- 一過性の葉焼け症状が発生しますので、葉焼け症状が回復してから散布をしてください。
- 3回以上の散布がお勧めです。スズメノカタビラの密度によって回数を調整してください。



## 4 公的試験

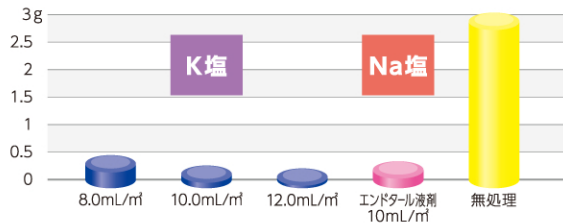
### コウライシバ (公財)日本植物調節剤研究協会 委託試験

【試験機関】 東日本グリーン研究所  
 【場所】 神奈川県Aゴルフ場  
 【試験区】 2㎡ (n=3)  
 【処理日】 1999年2月27日  
 【調査日】 1999年4月8日(処理後40日)  
 【対照薬剤】 エンドタル液剤(エンドタルII Na塩)  
 【水量】 200mL/㎡  
 【展着剤】 サーファクタントWK 0.1mL/㎡

#### 【処理40日後の芝の状態】

使用量	症状	程度
8mL/㎡	—	無
10mL/㎡	—	無
12mL/㎡	—	無
対照10mL/㎡	—	無

— 処理40日後のスズメノカタビラ残重量 —



スズメノカタビラに対して中～極大の効果が認められた。薬害は見られなかった。

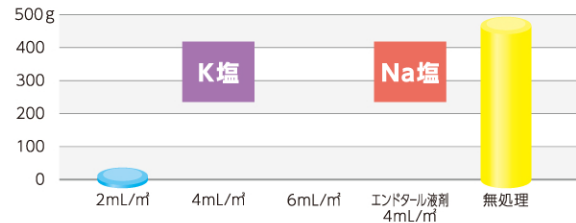
### ブルーグラス (公財)日本植物調節剤研究協会 委託試験

【場所】 北海道Aゴルフ場  
 【試験区】 2㎡ (n=2)  
 【処理日】 1998年10月12日  
 【調査日】 1998年11月17日(処理後36日)  
 【対照薬剤】 エンドタル液剤(エンドタルII Na塩)  
 【水量】 200mL/㎡  
 【展着剤】 サーファクタントWK 0.2mL/㎡

#### 【処理8日後の芝の状態】

使用量	症状	程度
2mL/㎡	葉焼け	微
4mL/㎡	葉焼け	微
6mL/㎡	葉焼け	微
対照4mL/㎡	葉焼け	微

— 処理36日後のスズメノカタビラ残重量 —



スズメノカタビラ生育期処理で除草効果が高かった。処理8日後は微程度の葉焼け症状が認められたが、速やかに回復し、その後の生育には影響はなかった。

### ベントグラス (公財)日本植物調節剤研究協会 委託試験

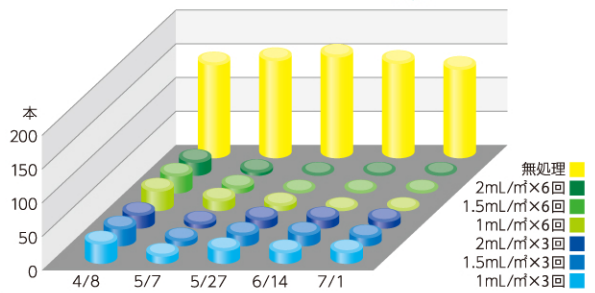
【試験機関】 東日本グリーン研究所  
 【場所】 山梨県Aゴルフ場  
 【試験区】 0.25㎡ (n=2)  
 【処理日】 2013年3月22日、4月8日、4月22日、5月7日、5月27日、6月14日  
 【調査日】 2013年4月8日、4月22日、5月7日、5月27日、6月14日、7月1日  
 【水量】 100mL/㎡  
 【展着剤】 サーファクタントWK 0.05mL/㎡

#### 【芝(調査時に確認)】

使用量	症状	程度
1.0mL/㎡	赤褐色	微
1.5mL/㎡	赤褐色	微
2.0mL/㎡	赤褐色	微

スズメノカタビラに対して大～極大の効果が認められた。ベントグラスに対して微程度の薬害のみみられたが実用上の問題はなかった。

— スズメノカタビラの本数 —



## 5 倍量薬害試験

### コウライシバ

【場所】 三井化学アグロ(株)農業化学研究所(滋賀県)  
 【試験区】 1㎡ (n=2)  
 【薬量】 12mL/㎡、24mL/㎡  
 【水量】 200mL/㎡  
 【展着剤】 サーファクタントWK0.1%加用  
 【処理日】 1999年1月18日  
 【調査日】 1999年4月1日、5月25日  
 【調査内容】 春期のコウライシバの萌芽と生育を無処理区と比較して観察判定。

	薬量 (mL/㎡)	萌芽 生育	
		4月1日	5月25日
エンドタル K液剤	12	無	無
	24	無	無
無処理区		無	無

### ブルーグラス

【場所】 三井化学アグロ(株)農業化学研究所(滋賀県)  
 【試験区】 100cm<sup>2</sup> (n=3)  
 【薬量】 6mL/㎡、12mL/㎡  
 【水量】 200mL/㎡  
 【展着剤】 サーファクタントWK0.1%加用  
 【処理日】 2011年4月13日  
 【調査日】 2011年4月28日、5月23日

	薬量 (mL/㎡)	薬害	
		4月28日	5月23日
エンドタル K液剤	6	無	無
	12	無	無
無処理区		無	無

葉焼け症状は早期に回復しその後の芝の生育に影響は認められなかった。

### ベントグラス (公財)日本植物調節剤研究協会 委託試験

【試験機関】 関西グリーン研究所  
 【場所】 宝塚市研究所試験圃場  
 【品種】 ベンクロス  
 【刈高】 4.5mm  
 【試験区】 1㎡ (n=2)  
 【処理日】 2013年4月8日  
 【調査日】 2013年4月16日、4月25日、5月7日

ベントグラスに対して一時的に黄色から赤褐色の葉色変化が認められたが、実用上の問題はなかった。生育抑制、芝密度低下は認められなかった。

回復までの日数 2mL:2週間程度 / 4mL:30日程度

使用量 (mL/㎡)	水量 (mL/㎡)	薬害(4月16日 処理後8日)	
		症状	程度
2.0	100	葉色変化	微
4.0	100	葉色変化	小
	200	葉色変化	小

# 芝用除草剤

容量×入数：**2ℓ×6**

# MIC<sup>®</sup>エンドタールK液剤

種類名：エンドタール ニカリウム塩液剤

農林水産省登録 第23994号

**有効成分** エンドタールニカリウム塩 [(1R,2S,3R,4S)-7-オキサビシクロ[2.2.1]ヘプタン-2,3-ジカルボン酸ニカリウム塩] …… 2.11% [(1R,2S,3R,4S)-7-オキサビシクロ[2.2.1]ヘプタン-2,3-ジカルボン酸として…1.50%]  
水等 …… 97.89%

**性状** 淡黄色澄明水溶性液体

## 適用雑草と使用方法

下記適用以外には使用しないで下さい。

作物名	適用雑草名	使用時期	10アール当り使用量		本剤の使用回数	エンドタールを含む農薬の総使用回数
			薬量	希釈水量		
日本芝 (こうらいしば)	スズメノカタビラ	芝休眠期 (雑草生育期)	8~12ℓ	200ℓ	3回以内	6回以内
西洋芝 (ブルーグラス)		秋冬期芝生育期 (雑草生育期)	2~6ℓ			
西洋芝 (ベントグラス)		春夏期芝生育期 (雑草生育期)	1~2ℓ	100ℓ		

## 使い方 散布

### 使用上の注意

- 本剤は、生育期のスズメノカタビラに有効なので、雑草の発生後に均一に散布すること。
- 本剤使用の際は、展着剤を加用すると効果的である。
- 散布直後の多量の降雨は効果を減ずるので、天候を見極めてから散布すること。
- 張り芝直後又は播種後6ヶ月未満の芝地、干害、異常低温、高温障害を受けた芝草への散布は、薬害を生じるおそれがあるので使用しないこと。
- ブルーグラスで使用する場合は次の事項に注意すること。
  - 1)スズメノカタビラを徐々に防除するためには、所定量の範囲内の低薬量で数回散布すると有効である。
  - 2)本剤の使用により芝草に黄変、葉先枯れなどの薬害を生じることがあるが、やがて回復し、その後の生育に対する影響は認められていない。
  - 3)芝草に薬害を生じた場合、2回目以降の散布は薬害症状が回復した後に行うこと。
  - 4)気温27℃以上の高温時の散布は薬害を生じるおそれがあるので使用しないこと。
  - 5)本剤は砂質土の芝地では薬害を生じるおそれがあるので、所定量の範囲内の低薬量で使用する。
- ベントグラスで使用する場合は次の事項に注意すること。
  - 1)スズメノカタビラを徐々に防除するため、所定量の範囲内の薬量で数回散布すること。
  - 2)本剤の使用により芝草に黄変、葉先枯れなどの薬害を生じることがあるが、やがて回復し、その後の生育に対する影響は認められていない。
  - 3)芝草に薬害を生じた場合、2回目以降の散布は薬害症状が回復した後に行うこと。
- 周辺作物や有用植物に薬液が飛散すると薬害を生じるおそれがあるので、飛散しないように注意して散布すること。
- 蚕に対して影響があるので、周辺の桑葉にはかからないようにすること。
- ミツバチに対して影響があるので、以下のことに注意すること。
  - 1)ミツバチの巣箱及びその周辺にかからないようにすること。
  - 2)関係機関(都道府県の農業指導部局や地域の農業団体等)に対して、周辺で養蜂が行われているかを確認し、養蜂が行われている場合は、関係機関へ農薬使用に係る情報を提供し、ミツバチの危害防止に努めること。
- 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合には病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

### 人畜に有毒な農薬については、その旨及び解毒方法

- 本剤は眼に対して弱い刺激性があるので眼に入らないよう注意すること。眼に入った場合には直ちに水洗すること。
- 本剤は皮膚に対して弱い刺激性があるので皮膚に付着しないよう注意すること。付着した場合には直ちに石けんでよく洗い落とすこと。
- 公園等で使用する場合は、散布中及び散布後(少なくとも散布当日)に小児や散布に関係のない者が散布区域に立ち入らないよう縄囲いや立て札を立てるなど配慮し、人畜等に被害を及ぼさないよう注意を払うこと。

### 水産動植物に有毒な農薬については、その旨

- この登録に係る使用方法では該当がない。

### 引火し、爆発し、又は皮膚を害する等の危険のある農薬については、その旨

- 通常の使用法ではその該当がない。

### 貯蔵上の注意事項

- 直射日光をさけ、なるべく低温な場所に密栓して保管すること。

●ラベルをよく読む。●ラベルの記載内容以外には使用しない。●小児の手の届く所には置かない。●空容器は園場などに放置せず、3回以上水洗し、適切に処理する。●洗浄水はタンクに入れる。

※本印刷物は2017年12月25日現在の資料、情報、データ等に基づいて作成していますが、記載データ及び評価はあくまでも測定値の代表例であり、全ての事例に当てはまるものではありません。MICは三井化学アグロ(株)の登録商標

販売元



三井化学  
グループ

株式会社 **エムシー緑化**

〒103-0023 東京都中央区日本橋本町1-9-1  
TEL 03-5290-2956 FAX 03-5290-2957  
ホームページ <https://www.mc-ryokka.com>

取扱い